

ヴェーゲナー (1880-1930) とナウマン (1854-1927)

A few remarks on Alfred Wegener (1880-1930) and Edmund Naumann (1854-1927)

矢島 道子^{1*}

YAJIMA, Michiko^{1*}

¹ 東京医科歯科大学教養部

¹ Tokyo Medical and Dental University

今年 2012 年はアルフレート・ヴェーゲナー (1880-1930) が大陸移動説を提唱してから 100 年になる。日本では、これを記念する催しはまだないし、主著『大陸と海洋の起源』に日本のことも、フォッサ・マグナのことも議論されていることはあまり知られていない。

フォッサ・マグナを提唱したエドムント・ナウマン (1854-1927) は 1990 年代に山下昇 (1996 など) や安井敏夫 (2004 など) によってナウマンについてはかなり研究されているが、最近、明らかになってきたナウマンに関するいくつかの知見を報告する。

- ・ナウマンはドイツのマイセンで生まれたが、マイセンのどこかは調査中である。
- ・ドレスデンのチョッヘ学校に通った。チョッヘという人の教育理念で創設された学校で、現在も存在する。
- ・チョッヘ学校の後、高等工業学校へ通ったが、その所在地は現在のドレスデン工業大学の位置とは異なる。ドレスデンは第 2 次世界大戦で大きな被害を受けた。
- ・チッテル (Karl Alfred von Zittel, 1839-1904) の生誕 150 年記念誌 (Mayer, 1989) にナウマンは弟子として記載されていない。これは、編集者がナウマンを認識していなかっただけであった。
- ・ギュンベル (Carl von Guembel 1823-1898) の紹介本 (Sperling, 2001) にはナウマンは弟子として記載されている。ナウマンがドイツで認識され始めた結果である。
- ・ナウマンの最初の妻は、ドレスデン高等工業高校を代表するシューベルト (Johan Andreas Schubert 1808-1870) 教授の長女ゾフィー (Sophie Naumann) であった。
- ・ナウマンが日本を去るにあたって、横山又次郎 (1860-1941) などの教え子たちが送別の宴を両国の亀清 (かめせい) で開いた。ナウマンは興に乗ると、四国は宇和島の芸者にならったという踊りを踊った。ナウマンは、この踊りはその昔ケンペルが綱吉將軍の前で踊ったものかもしれないと語ったという (矢島, 2003)。
- ・ナウマンの終焉の地はフランクフルトのクレッテンベルク通りであるが、ここは高級住宅地であった。

引用文献

Mayer, H. 1989. Karl Alfred von Zittel 1839-1904 zum 150. Geburtstag. Mitt. Bayern Staatslg. Palaont. hist. Geol., 29, 7-51.

Sperling, T., 2001. Carl von Gumbel (1823-1868) Leben und Werk des bedeutendsten

Geologen Bayerns. Verlag Dr. Friedrich Pfeil, Muenchen.

矢島道子, 2003. 横山又次郎著『世界の反響』に描かれたケンペルとナウマン. 化石, 73, 44-45.

安井敏夫, 2004. ナウマン博士による佐川盆地のスケッチ. 不思議の森から, 11, 2-3.

山下 昇訳, 1996. 日本地質の探求? 日本地質の探求? ナウマン論文集?. 東海大学出版会.

キーワード: ナウマン, ヴェーゲナー, フォッサマグナ

Keywords: Naumann, Wegener, Fossa Magna